

科目ナンバリング							
授業科目名 ＜英訳＞	ILASセミナー：エネルギーと環境のシステム学 ILAS Seminar :Systems Science of Energy and Environment			担当者所属 職名・氏名	エネルギー科学研究科 教授 手塚 哲央		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	12(12)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	総合研究11号館217(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	エネルギーシステム学 / エネルギー需給 / エネルギーと環境 / 生活 / 地域経済						
[授業の概要・目的]							
「エネルギーシステム学」では、エネルギーの供給安定や安全性、社会構造、環境影響、ライフスタイルなど、エネルギーの生産から消費にかかわる様々なシステムの諸問題を研究の対象とします。そしてその一つの特徴は、技術と社会、ミクロとマクロなどの相異なる複数の視点から同時に考える点にあります。この講義では、エネルギーと環境のシステムの問題を具体的にいくつかとりあげその技術的・社会的な問題点について各グループで「複数の視点から」調査・整理した結果を発表し、その内容についてTA (Teaching Assistant)も含め全員で議論します。 一つの問題に対していろいろな考え方があること、そして複数の視点から同時に考えることが意外に難しいことを、討論を介して体験することが、このゼミの大切な目的です。また、グループで検討する課題を各自の意見を反映させながら合意形成により決める過程も重視します。実際、与えられた問題の解答を考えることよりも、検討すべき問題を作成することの方が、はるかに重要であることが多いのです。							
[到達目標]							
エネルギー需給システムに関連する技術と政策について、理系・文系などという従来の学問領域の枠を超えた多角的な視点から分析、理解、発表、議論できる能力を養う。特にエネルギー・環境問題の検討に人間・社会にかかわる視点が不可欠であることを体得する。							
[授業計画と内容]							
(1) エネルギーと環境についての基礎事項の講義、作業グループの決定 (2) 講義で取り上げる問題の決定 将来エネルギーに対する各種政策、報告書、啓蒙書から、身近で興味ある話題を、各グループごとに選択する。その際、技術と社会などの相異なる複数の視点が論点に含められることを確認する。 例：各種エネルギーの供給や消費における課題の調査とその解決策の検討。 (生活、都市、地域経済、自動車、地球温暖化、再生可能エネルギー、新エネルギー、エネルギー政策等) (3) 選択した問題をグループ毎で調査(調査項目の調整を含む) 各問題ごとに検討すべき具体的課題を決定、疑問点を調査、解決策を検討する。 (4) 調査結果の報告と自由討論 調査結果、検討結果をグループごとに発表し意見交換する。 (5) 以上のプロセスを2回、グループ編成を変えて実施する。そして、エネルギー・環境・経済問題に対する意見の相違、及び全体的視点での議論を体験する。 なお、2回目は、1回目の反省点を踏まえて、発表の内容や方法に工夫を加えることを期待する。							
ILASセミナー：エネルギーと環境のシステム学(2)へ続く↓↓↓							

ILASセミナー：エネルギーと環境のシステム学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席，議論への積極的な参加、調査・検討結果のグループ発表とレポート提出。詳しくは授業中に説明する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

セミナー時に与えられた課題について、必ず期日までに、自分で調べ発表できるように準備すること。またその際に、自分の考え方や視点を大切にすること。

[その他（オフィスアワー等）]

エネルギー・環境に関わるシステム的问题に関心を持っている学生を歓迎します。
いわゆる文系、理系にこだわりません。
むしろ異なった学習分野から多様な考え方を持った学生の参加を希望します。
疑問に思ったことを問いかけ、他者の考えを理解し、自分の考えを発信する場を体験してください。

教員への連絡はメールで随時。研究室訪問も歓迎。